

令和二年度第二学年国語科学年未テスト

令和三年二月十七日(水)実施

二年 組 番・氏名()

一次の①～⑧の——部のひらがなの部分は漢字で書き、漢字の部分は読み方を書きなさい。(送り仮名も書くこと)

- ① 王の命令をこばむ。 (各二点)
- ② 頼みをしようたくする。 (各二点)
- ③ 岩をくたく。 (各二点)
- ④ うそはきらいだ。 (各二点)
- ⑤ 足が萎える。 (各一点)
- ⑥ 敵を一蹴する。 (各一点)
- ⑦ 躍り上がって喜ぶ。 (各一点)
- ⑧ 夜空を仰ぐ。 (各一点)

二 助動詞の問題です。(各一点)

I 次の——線部の助動詞の意味を下から選んで記号で答えなさい。

- ① 私は何も知らない。 ② 私が読みます。 ③ たまにはゆっくりしたい。
- ④ 彼はそのことを知っていたようだ。 ⑤ 日曜日はどうやら晴れそうだ。
- ⑥ 妹にドアを閉めさせる。 ⑦ 先生が私の家に来られる。 ⑧ 今日は図書館に行こうと思う。

ア 意志	イ 様態	ウ 過去	エ 希望	オ 推定
カ 使役	キ 尊敬	ク 伝聞	ケ 打ち消し	コ 丁寧

II 次の——線部の「た」と同じ意味、用法のものを、下から一つずつ選んで記号で答えなさい。

- ① 昨年の試合では準優勝だった。
- ② 壁にはられたポスターを見る。
- ③ 宿題をやり終えたところだ。

ア 水を入れたコップを差し出す。
イ 校外学習の準備ができた。
ウ 昨日は学校までバスで来た。

三 次の古文を読んで、問題に答えなさい。

頃は二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、

折節北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は

揺り上げ揺りすゑ漂へば、扇も串に定まらずひら

めいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれも

いづれも、晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国

の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、

願はくはあの扇の真ん中射させてたばせたまへ。こ

れを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、

人に再び面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へ

んとおぼしめさば、この矢外させたまふな。」と、心

の内に祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き

弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

(1) ①「揺りすゑ」、③「願はくは」を現代仮名遣いに直して、すべて

ひらがなで書きなさい。

(2) ②「晴れならずといふことぞなき」の現代語訳として、適切な

ものを次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 全く晴れがましくない。

イ 少しばかり晴れがましい。

ウ 実に晴れがましい。

エ 晴れがましいことはない。

(3) 与一は神々の加護を祈って覚悟を決めますが、与一の覚悟の強さを表している一文をさがし、初めの五字を書きなさい。





与一、鏑を取つてつがひ、よつ引いてひやうど放つ。
 小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響く
 ほど長鳴りして、あやまたず扇の要際一寸ばかり
 おいて、ひいふつとぞ射切つたる。鏑は海へ入りけれ
 ば、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめ
 きけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつ
 とぞ散つたりける。
 夕日の輝いたるに、皆紅の扇の日出だしたるが、
 白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖
 には平家、舟端をたたいて感じたり。陸には源氏、
 籠をたたいてどよめきけり。

(4) 「扇は空へぞ上がりける」と対句になっている部分を
 書き抜きなさい。

(5) 「ひらめきけるが」の主語を、漢字一字で書きなさい。

(6) 与一が扇を射止めた後の平家と源氏の様子を、それぞれ
 書き抜きなさい。

(7) 文章中から、擬音語を二つ抜き出しなさい。

(8) 「平家物語」について説明した次の文章の空欄①②③に
 当てはまる言葉を後の語群から選んで記号で答えなさい。

「平家物語は」、(①)時代に成立した(②)物語で
 ある。武士の身から太政大臣にまで昇った(③)を中心と
 した平家一門の興亡や英雄たちの活躍とともに、新しい時
 代を担うこととなった武士たちの気風や生き方、戦乱に明
 け暮れした社会のありさまを描いている。

【語群】 ア 奈良 イ 平安 ウ 鎌倉

エ 随筆 オ 軍記 カ 和歌

キ 源頼朝 ク 源義経 ケ 平清盛

(8)は各一点 それ以外は各二点

四 次の漢詩を読んで、問題に答えなさい。(各二点)

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白

(起句) 故人西のかた黄鶴楼を辞し

(承句) 烟花三月()

(④) 孤帆の遠影碧空に尽き

(結句) 惟だ見る長江の天際に流るるを

A

故人西辞黄鶴楼
烟花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽
惟見長江天際流

Aの詩を読んで問題に答えなさい。

(1) ①「送る」とありますが、『誰が』『誰を』『送るのですか。名前を

漢字で書きなさい。(完全正答)

(2) この詩の中における②「故人」の意味を五字以内で書きなさい。

(3) () にあてはまる書き下し文を書きなさい。

(4) この詩の形式を何といいますか。漢字四字で答えなさい。

(5) この詩の形式で第三句のことを何といいますか。④に入る漢字

二字の言葉を答えなさい。

(6) ⑤に込められた作者の心情として、最もふさわしいものを一つ

選んで記号で答えなさい。

ア 孤独 イ 祝福 ウ 不安 エ 期待



B

春望 杜甫

1 国破れて山河在り

国 破 山 河 在

2 城春にして草木深し

城 春 草 木 深

3 ⑥ 時に感じては花にも涙を濺ぎ

感 時 花 濺 涙

4 別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

恨 別 鳥 驚 心

5 烽火三月に連なり

烽 火 連 三 月

6 ⑦ 家書万金に抵たる

家 書 抵 万 金

7 白頭搔けば更に短く

白 頭 搔 更 短

8 渾て簪に勝へざらんと欲す

渾 簪 欲 不 勝 簪

※数字は、句の番号を示す。

Bの詩を読んで問題に答えなさい。

(7)この詩の形式を漢字四字で書きなさい。

(8)1句めと2句めは対句になっています。ほかの対句を

二カ所探して、数字で答えなさい。

(9)⑥「時に感じては花にも涙を濺ぎ」の部分を書き

下し文を参考にして、返り点と送り仮名を書きな

さい。

(10)⑦「家書万金に抵たる」について説明した次の文の

()に当てはまる言葉をそれぞれ漢字二字で

答えなさい。(完全正答)

家族からの(ア)は、(イ)に相当するものである。

(11)「7句」「8句」から分かる作者の心情を次から

一つ選んで記号で答えなさい。

ア もうどうしようもないという深いあきらめ。

イ 戦乱や家族の安否に対する不安とあせり。

ウ 職務をまっとうしようという強い意欲。

エ 老いていくことへの激しい怒りと抵抗。

五次の文章を読んで問題に答えなさい。(各二点)

ああ、もういつそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追出すようなことはしないだろう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみれば、くだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかったか。ああ、何もかも、ばかばかしい。私は、醜い裏切り者だ。どうとも、勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつと頭をもたげ、息をのんで耳を澄ました。すぐ足もとで、水が流れているらしい。よろよろ起き上がって、見ると、岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささやきながら清水が湧き出ているのである。その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかがめた。水を両手ですくって、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、^④夢から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、^⑤僅かながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名誉を守る希望である。斜陽は赤い

(1) ①「人を殺して自分が生きる」と反対の生き方を意味する言葉を、「く生き方」と続くように、あとの段落中から十三字で書き抜きなさい。

(2) ②「やんぬるかな」は、どんな気持ちから発せられた言葉ですか。次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 肩の荷がおりてほっと安心する気持ち。

イ どうしようもないと投げやりな気持ち。

ウ 何もかもくだらないと軽蔑する気持ち。

エ 当然の結果だと心から納得する気持ち。

(3) ③「岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささやきながら清水が湧き出ている」とありますが、この部分に用いられている表現技法を選んで記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 対句 ウ 反復法 エ 体言止め

(4) ④「夢から覚めたような気がした」とありますが、この「夢」は、眠って見る「夢」の他に、どんな気持ちを意味しますか。次から選んで記号で答えなさい。

ア 裏切り者になってしまおうという気持ち。

イ 友を救うため走り続けようという気持ち。

ウ 村に残してきた家族を心配する気持ち。

エ 邪悪な王をこらしめようという気持ち。

光を、木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日没までには、まだ間がある。私を、待っている人があるのだ。少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。私は、信じられている。私の命などは、問題ではない。死んでおわび、などと気のいいことは言っておられぬ。私は、信頼に報いなければならぬ。今はただその一事だ。走れ！メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が破れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。ありがたい！私は、正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。ずっと沈む。待ってくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてください。

(5)⑤「僅かながら希望が生まれた」とありますが、どんな希望ですか。七字で二つ書きなさい。

(6)⑥「少しも疑わず」とありますが、どんなことを疑わないのですか。「……こと」につながるように十字以内で答えなさい。

(7)⑦「私の命などは、問題ではない。」と考えたのはなぜですか。その理由を三十字以内で書きなさい。

(8)⑧「走れ！メロス」とありますが、このときのメロスの気持ちが一番強く述べられた一文を、これより前の部分から、十六字でさがし、最初の五文字で答えなさい。

(句読点も一字とする。)

(9)この文章は「走れメロス」という作品の一部である。作者名をフルネームで書きなさい。(ひらがなでも可)

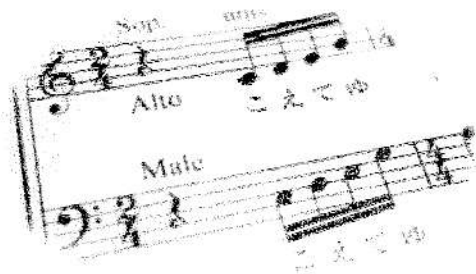


六 条件に従って作文を書きなさい。

○みなさんは、今、素晴らしい成長をし、最高学年に向けて、準備を進めています。(『立志のつどい』もその一つですね。)そこで、「最高学年として」と題して、次の条件に従って、自分の思いを作文に書きましょう。

【条件】 ※タイトルや名前は書かないこと。(各二点 計十点)

- ① 二段落構成とすること。
- ② 一段落目には「最高学年として」どんな自分になりたいか、目指すべき姿を明確に書くこと。
- ③ 第二段落目には、第一段落で書いた自分、目指すべき姿になるために、どんな行動をとっていくかや、どんな努力をしていくかなど、具体的な取り組みを書くこと。
- ④ 百二十字以上百五十字以内で書くこと。
- ⑤ 主語と述語の関係や、誤字・脱字に気をつけて、文末は敬体(丁寧な言い方)で書くこと。



二年 組 番・氏名)